

令和２年度事業報告

事業は、基本的に第28回理事会において承認され、第9回通常総会に報告した令和２年度事業計画に基づき実施した。詳細は以下のとおりである。

I 会議

1 総会

第9回通常総会

日 時 令和２年６月５日 午後２時～午後３時

場 所 東京都台東区台東 1-26-6 公益財団法人日本植物調節剤研究協会会議室

出席会員数 50 名(委任状とも)

議決事項

第１号議案 令和元年度事業報告及び計算書類承認に関する件

第２号議案 役員報酬に関する件

第３号議案 役員退任に伴う役員選任に関する件

以上の議案はいずれも異議なく承認された。

報告事項

(１) 令和２年度事業計画及び収支予算に関する件

2 理事会

第29回理事会

日 時 令和２年４月24日付け 会長による書面理事会提案

令和２年５月11日 理事会の決議があったものとみなされた。

議 案

第１号議案 令和元年度事業報告及び計算書類の承認

第30回理事会

日 時 令和２年６月５日 午後２時30分～午後２時50分

場 所 東京都台東区台東 1-26-6 公益財団法人日本植物調節剤研究協会会議室

議決事項

第１号議案 役員の選任に関する件

第31回理事会

日 時 令和３年３月９日付け 会長による書面理事会提案

令和３年３月25日 理事会の決議があったものとみなされた。

議 案

第１号議案 令和２年度事業報告及び収支決算報告(見込)に関する件

第2号議案 役員報酬に関する件

第3号議案 「入会金、会費、業務会費徴収規程」の一部改正に関する件

第4号議案 令和3年度事業計画(案)及び収支予算(案)に関する件

第5号議案 第10回通常総会招集に関する件

II くん蒸技術の普及及び安全対策事業

1 倉庫等くん蒸作業者の安全対策事業

- (1) 安全対策委員会を3月末に計画したが、新型コロナウイルス感染防止のため、開催は見合わせた。
- (2) 臭化メチル中毒診断治療小委員会を引き続き設置した。ホームページに掲載している「臭化メチル中毒患者に対する処置について」の活用を講習会等を通じて関係者に周知した。
- (3) 全国9か所で植物検疫くん蒸作業主任者及びぶん蒸関係者に対する講習会を実施した。

2 土壌くん蒸安全対策事業

土壌くん蒸薬剤について、安全かつ適切に使用するため、クロルピクリン剤の重点県については巡回指導員の研修を実施する等、指導の充実に努め事故防止の徹底を図った。

3 くん蒸技術の普及事業

- (1) 新しく開発されたくん蒸技術に関し、その的確・安全な使用の普及を図った。本年度は、昨年に引き続き栗生果実のくん蒸におけるヨウ化メチル剤の適切な使用を普及するため重点的に取り組んだ。
- (2) 平成29年度まで実施した農食委託事業における成果のアウトリーチ活動として、農林水産省、植物防疫所等の関係官庁及びぶん蒸業・倉庫業界等を対象にサイロ空間部投薬循環方式によるリン化アルミニウムくん蒸法の普及を図った。
- (3) 「国際基準 No.15」で規定されている輸出梱包用木材に関する臭化メチルくん蒸による消毒について、適切に処理できるよう関係者に対する講習会を実施した。

III くん蒸等防除技術の開発・調査事業

1 倉庫等くん蒸技術開発・調査事業

- (1) 我が国の輸出に有利な国際的検疫処理基準の確立、実証委託事業：
日くん協、(国研)果樹研、(国研)量子研、(国研)食総研、輸出果実生産6県による共同試験事業
○輸出果実のくん蒸消毒試験：
りんご及びみかん生果実のヨウ化メチルくん蒸殺虫基準作成のための試験を実施した。
- (2) レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業のうち、短期課題問題解決型研究の「臭化メチル代替の消毒方法の確立及び安全性の確保 1. 新たな消毒方法の評価、選定に係る研究」： 輸入後、直ちに加工処理が行われる穀類、豆類を対象に、消毒効果等を評価した。

2 農薬用保護マスク研究調査事業

- (1) 農薬用保護マスク研究会の事務局として、農薬散布者の健康安全を確保するため、「農薬散布に使用するマスクの手引き」(15 版) 及びチラシを印刷・配布し、農薬用保護マスクの適正使用について普及を図った。
- (2) 県、JA 等が実施する農薬安全使用講習会等にマスク専門家を講師として派遣し、マスクフィッティングテスターを用いたマスク適正着用講習を実施した。本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大傾向にあることと等から、マスク専門家派遣事業の実施は難しい状況となった。このため、状況が回復するまで派遣事業は見合わせることにし、都道府県等にこの旨を伝えるとともに、個別対応した結果、本年度の専門家派遣はとやま農業未来カレッジの特別講義 1 件にとどまった。
- (3) 農薬登録されている全ての農薬ごとに登録内容に従って使用するマスクの種類が分かるように作成した検索用ファイルを当会ホームページにおいて公開し、更新(第7版)した。

3 蒸熱消毒研究調査事業

蒸熱消毒研究会を開催し、輸入禁止植物の条件付き輸入解禁品目の輸入状況、解禁手続きの進捗状況、蒸熱消毒に関する国際基準などの情報提供及び意見交換等を実施した。

IV その他の事業

1 梱包材等輸出検疫関係事業

- (1) 輸出梱包材のくん蒸消毒証明について、(一社)全国植物検疫協会と契約し防除業者の認定審査、技術指導等の事業を実施した。
- (2) 輸出車両、機械及び部品のくん蒸証明に関して、ニュージーランド及び豪州政府に対しくん蒸会社会員 5 社を海外処理業者としての承認申請した結果、正式に承認された。このため、これらの会員が実施する車両、自動車部品、建設機械等のくん蒸及び証明について、規則等の情報を提供するとともに技術的支援や相手国との調整などを行った。
- (3) 輸入国の検疫要求に基づく少量の農産物(コメ)のくん蒸処理、金属類に対するくん蒸剤の影響調査のためのくん蒸処理を行った。

2 広報活動

- (1) 機関紙「日くん協だより」を 4 回発行するとともに、「くん蒸の理論と実際」等の各種講習会用テキスト、くん蒸剤安全性に関するパンフレット等を印刷発行した。
- (2) くん蒸作業安全教育及び農薬の安全性等についてのDVD等の貸出しを行った。
- (3) 当会ホームページ(URL:<http://www.nikkunkyo.or.jp>)を運営し、くん蒸技術の普及等を行った。また、効率的な運用を図るため、ホームページの内容の見直しを行った。

3 調査

安全で効果的かつ経済的なくん蒸技術と大気保全に係る内外の情勢等について情報の収集を行い、一部は機関紙「日くん協だより」に掲載した。

4 くん蒸用供試虫、供試菌の提供及び効果判定

くん蒸用供試虫の飼育・提供、くん蒸効果確認及びくん蒸消毒実施証明を行った。また、殺菌効果判定用供試菌についても培養・提供・効果判定を行った。

本年度は、供試虫、菌の提供サンプル数はそれぞれ665件(昨年570件)、645件(同549件)で、効果判定についてはそれぞれ189件(同153件)、182件(同144件)となった。

- 5 (独)国際協力機構(JICA)が実施する2020年度課題別研修「農産物を輸出するための実践的植物検疫技術(ミバエ類殺虫技術)」コースに関する業務について、JICAによる参加意思確認公募の結果(令和2年2月)に基づき、例年どおり研修受託契約を締結し、海外研修員を対象として那覇植物防疫事務所で約4か月間実施する予定であった。しかし、同年6月、JICAは新型コロナウイルスの感染状況が拡大傾向にあること、海外からの水際対策の強化が続く状況下にあることから、本年度の研修実施を見合わせる事となった。

6 その他

- (1) 植物検疫に係る防除に関する情報及び農林水産省等からの連絡文書等、必要な情報の収集及び提供を行った。

- (2) 当会が実施する植物検疫くん蒸作業主任者専門講習再講習(再講習)について、総務省は「国の資格の更新等に伴う講習・研修等の見直しに関する実態調査」を実施した結果(令和2年12月)、デジタル化をさらに推進するため、従来の対面方式を見直し、オンライン等による非対面方式による実施方法の導入の必要性が指摘された。

このため、当会ホームページを活用した非対面方式による講習方法の導入を検討し、併せて、輸出木材こん包材くん蒸技術講習の実施方法についても同様の検討を行った。

- (3) 平成28年7月1日に施行された固定資産税の優遇等を目的とした「中小企業等経営強化法」に基づく審査証明機関として、新たに導入されたくん蒸設備が優遇税制の適用対象になるかを審査することとしているが、本年度の証明実績はなかった。

- (4) 当会は、農林水産省から国連が定めた「国際植物防疫年2020」の周知活動を行うオフィシャルサポーターに認定されており、当会ホームページ、機関紙「日くん協だより」、講習会等での紹介、ロゴマークの使用等の取組み等を行い、植物防疫・植物検疫の周知に努めているところである。

V 会員数

	通常会員	特別会員	賛助会員
令和2年4月1日現在	49	1	35
令和3年3月31日	48 ^{注1)}	1	37 ^{注2)}

注1) 通常会員

退会:

令和3年3月31日 大阪木材検疫協会

注2) 賛助会員

入会:

令和2年8月3日 ZM クロッププロテクション株式会社

令和2年8月6日 アマカップジャパン株式会社

令和2年8月11日 株式会社ツムラ

退会:

令和3年3月31日 ダウ・アグロサイエンス日本株式会社